

奈良、旅もくらしも (WEB) 【連載】「わたしと奈良」

令和 3 年 2 月 20 日

『奈良、旅もくらしも』は

「旅」と「くらし」を分け隔てない奈良の web メディアです。

日常を離れて特別な体験をする旅は、地域に日々暮らしている方の仕事があって成立っている。誰がどこで何をしてきたのか、しているのか/外から訪れる旅の人にも、住んでいる地元の人にも/更に奈良を楽しむための情報をお伝えしていきます。

編集長

今回の WEB『奈良、旅もくらしも』の連載記事「わたしと奈良」(文：谷規佐子氏)「第 1 回 幼き日の思い出」にて奈良今昔写真 WEB の写真を利用いただきましたので紹介いたします。

筆者の幼い時の、「奈良」と関連づいた思い出を記憶の底から掘り上げ、昭和 30 年代から昭和の終わりまでの「私の見た奈良」を書いていこうと思います。

生まれは京都府木津川市山城町で、奈良まで JR で 11 分という近さでしたが、奈良へは普段の生活圏ではなく「ハレ」の場所というイメージでした。物心ついた時から「ハレ」の日の奈良へ、よく連れて行ってもらいました。奈良公園やドリームランドに遊びに連れて行ってもらったり、二月堂修二会の「達陀帽」(だたんぼう)を被らせてもらった記憶もあります。

何より強烈な印象として残っているのが、大きな賑やかなパレード(行列)で、その中で見た裸のお腹に顔が描かれた人達が練り歩いていた様子が忘れられません。



写真：平城遷都 1250 年祭 仮装行列(昭和 35 年(1960)) 谷井孝次氏提供

賑やかな行列だったので、それは「おん祭」のお渡り式だと思っていましたが、奈良に住んでお渡り式を何度も見学して、裸行列の場面がないことに気が付いて、そしてそもそも神聖な神事にそんな場面があるはずがないと気付いて、では一体、あれは何だったのだろうという疑問が長く頭の中に残っていたのです。

その後 2010 年に平城遷都 1300 年祭が賑やかに開催された時に、その 50 年前には 1250 年祭が行われたと知り、4 歳の自分が見学したのはそのパレードだったと、やっと頭の中の霧が晴れたように理解したのでした。このパレードを見学した場所は、近鉄奈良駅の郵便ポストのある辺り、まだ近鉄奈良駅が地上にあって、終電から始発までの時間は蛇腹のシャッターが閉まっていたと記憶しています。・・・・・・以下省略